

9		⑥国境と領土問題 ⑦外交政策と日本の役割  第5章 現代の経済社会と私たちの生活 ①経済社会と経済体制 ②経済主体と企業の活動 ③市場経済のしくみ ④経済成長と景気変動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国境と領土問題や日本の領土問題について、教科書の写真・地図を使用して理解する。</li> <li>・国際社会における日本の役割や、国際社会の一員として私たちは何をすべきかを考える。</li> <li>・経済の基本的なしくみや企業・家計・政府の活動について理解する。</li> <li>・企業の社会的責任について理解するとともに、個人の責任についても考察する。</li> <li>・経済成長は生活にどのような変化を与えるかを、具体的事例をあげて考察する。</li> </ul>	
10	・定期 考査 Ⅲ	⑤政府の経済的役割と租税の意義 ⑥金融機関のはたらき ⑦戦後の日本経済の動き ⑧産業構造の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政政策の意義、日本の財政の現状と課題を理解し、租税の意義と課題について、具体的に事例をあげて考察し、自分に引きつけて考える。</li> <li>・金融機関や日銀の役割について理解する。</li> <li>・平成不況に対する政策を調査し、日本経済の課題について多角的に考察する。</li> <li>・技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化、経済のサービス化・ソフト化について、身近な問題と関連させて考察する。</li> </ul>	
11	・定期 考査 Ⅳ	⑨雇用と労働問題 ⑩公害の防止と環境保全 ⑪消費者保護と契約 ⑫社会保障と国民福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働者が憲法や法律で守られている理由を考え、雇用事情の変化と労働条件や労働環境を理解する。</li> <li>・雇用事情の変化とさまざまな労働問題について、具体的事例をあげて自分の問題として多角的に考察する。</li> <li>・消費者問題や消費者主権について、自分自身の問題として具体的事例をあげて考察する。同時にエコ消費など消費活動を通じて社会変革に関与できる可能性について考察する。</li> <li>・社会保障の意義を理解し、現代の社会保障の課題について考察する。</li> </ul>	
12		第6章 国際経済の動向と日本の役割 ①国際経済のしくみと貿易の拡大 ②進む経済統合 ③国際経済の動向 ④発展途上国の経済と南北問題 ⑤国際協調と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貿易の意義、円高・円安の生じる理由、経済のグローバル化及びそれらの身近な社会への影響について考える。</li> <li>・地域的経済統合や分裂をはかる動きが見られることを理解しそれによって何がもたらせるかを理解する。</li> <li>・世界各国の貿易について理解し、貿易の拡大とそれともなう貿易摩擦や南北問題等とその対応策について考える。</li> <li>・発展途上国の人口問題や食料問題の現状や原因、展望について理解する。</li> <li>・国際協力のあり方、国際経済の中での日本の役割について自分自身の問題として考える。</li> <li>・グループワークなどにより、討論や資料まとめ、発表など思考、判断、表現の練習を行う。</li> </ul>	
1		第7章 現代に生きる倫理 ①豊かな人生を求めて ②日本の伝統的なものの考え方 ③近代の西洋思想 ④現代に生きる人間の倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本的な考え方、西洋的な考え方などを学習し、その違いについて考察するとともに、多様性を尊重する姿勢や他者に対する寛容さの必要性を理解する。</li> </ul>	

## 2021年度 数学シラバス

教科名		数学		教科書等	東京書籍
科目名		数学Ⅱ	教材等		『Standard Buddy STAGE 数学Ⅱ』(東京書籍) 『Standard Buddy STAGE 数学Ⅱ 演習ノート』(東京書籍)
単位数		3	履修学年区分		3学年(文系)
履修区分		選択科目			
目 標		指数関数・対数関数・微分・積分および1年で既習した内容の考えについて理解を徹底させ、基礎的な知識の習得と技能の定着を図る。また、事象を数学的に考察し表現する能力を向上させるとともに、それらを活用できるようにする。			
評価の観点		関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
観点の趣旨		数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	行動の観察	○	○	○	○
	提出物・小テスト	◎	○	○	○
	定期考査等		◎	◎	◎
	観点の重み(%)	25	25	25	25
月	考査	学習内容(単元名)	学習活動とねらい	備考・変更点	
4	定期考査Ⅰ	第4章 指数関数・対数関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>指数法則を用いて、指数や累乗根の計算ができるようにする。</li> <li>指数関数の性質を理解し、大小関係を表したり、指数方程式・指数不等式が解けるようにする。</li> </ul>		
5	定期考査Ⅱ	第4章 指数関数・対数関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>対数の定義や性質を理解し、対数を用いた計算ができるようにする。</li> <li>対数関数の性質を理解し、大小関係を表したり、対数方程式・対数不等式が解けるようにする。</li> <li>常用対数の性質を理解し、桁数の問題や小数首位問題を解けるようにする。</li> </ul>		
6		第5章 微分と積分	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均変化率や微分係数の定義を理解しその計算ができるようにする。</li> <li>導関数の定義を理解し、定義に従った導関数を求めたり、導関数の性質に従った微分の計算ができるようにする。</li> <li>増減表を用いて、関数の増減や極大値・極小値を求められるようにする。</li> </ul>		
7	定期考査Ⅲ	第5章 微分と積分	<ul style="list-style-type: none"> <li>増減表やグラフを用いて、関数の最大値・最小値を求められるようにする。</li> <li>グラフを用いて高次方程式の解の個数を求められるようにする。</li> <li>不定積分の定義や性質を理解し、不定積分の計算ができるようにする。</li> </ul>		
9		第5章 微分と積分	<ul style="list-style-type: none"> <li>定積分の定義や性質を理解し、定積分の計算ができるようにする。</li> <li>定積分の考え方をを用いて、図形の面積を求められるようにする。</li> </ul>		
10	定期考査Ⅳ	数Ⅰ・A分野の復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学Ⅰ・Aの総復習を行う。</li> </ul>		
11		数Ⅰ・A分野の復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学Ⅰ・Aの総復習を行う。</li> </ul>		
12	伊奈講座	共通テスト試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通テスト対策の問題演習を行う。</li> </ul>		
1		共通テスト試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通テスト対策の問題演習を行う。</li> </ul>		
2	-				
3	-				

## 2021年度 数学シラバス

教科名		数学		教科書等	東京書籍
科目名		数学Ⅱ・B	教材等		STAGE 数学Ⅱ 攻略! 共通テストPickUp128 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B』(東京書籍)
単位数		6(4+2)	履修学年区分		3学年(理系 数学Ⅱコース)
履修区分		選択科目			
目標		1, 2年次で学習した内容について、演習を中心とした復習を実施して、受験に対応できるようになる。			
評価の観点		関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
観点の趣旨		数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	行動の観察	○	○	○	
	提出物・小テスト	◎	○	○	○
	定期考査等		◎	◎	◎
	観点の重み(%)	25	25	25	25
月	考査	学習内容(単元名)	学習活動とねらい		備考・変更点
4	定期考査Ⅰ	【数学Ⅱ】指数関数・対数関数	・指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
5	定期考査Ⅱ	【数学Ⅱ】微分と積分	・微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。		
6		数学ⅠAの復習	・数学ⅠAの基本的な知識を組み合わせ入試問題を解く。		
7	定期考査Ⅲ	数学ⅠAの復習	・数学ⅠAの基本的な知識を組み合わせ入試問題を解く。		
9		数学ⅡBの復習	・数学ⅡBの基本的な知識を組み合わせ入試問題を解く。		
10	定期考査Ⅳ	数学ⅡBの復習	・数学ⅡBの基本的な知識を組み合わせ入試問題を解く。		
11		数学ⅡBの復習	・数学ⅡBの基本的な知識を組み合わせ入試問題を解く。		
12	伊奈講座	共通テスト演習	・共通テスト対策問題集に取り組み、入試本番に備える。		
1		共通テスト演習/苦手分野克服講座	・共通テスト対策問題集に取り組み、入試本番に備える。 ・共通テスト後は、一般試験に向けて苦手分野の内容について集中的に学習をしていく。		
2	-				
3	-				

## 2021年度 数学シラバス

教科名		数学	教科書等		東京書籍
科目名		数学Ⅲ	教材等		STAGE 数学Ⅱ・STAGE 数学Ⅲ 攻略！共通テストPickUp128 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B』（東京書籍）
単位数		6	履修学年区分		3学年(理系 数学Ⅲコース)
履修区分		選択科目			
目標		指数関数・対数関数、複素平面、式と曲線、極限、微分法、微分法の応用、積分法とその応用について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指す。また事象を数学的に考察する能力を身につけ、数学のよさを認識し、それらを活用できるようにする。			
評価の観点		関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
観点の趣旨		数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	行動の観察	○	○	○	○
	提出物・小テスト	◎	○	○	○
	定期考査等		◎	◎	◎
	観点の重み(%)	15	30	30	15
月	考査	学習内容(単元名)	学習活動とねらい	備考・変更点	
4	定期考査Ⅰ	【数学Ⅱ】 指数関数・対数関数	・指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
5	定期考査Ⅱ	【数学Ⅱ】 微分と積分	・微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。		
6		第3章 関数と極限	・数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
7	定期考査Ⅲ	第4章 微分	・関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和・差・積・商及び合成関数の導関数を求める。 ・三角関数、指数関数、対数関数の導関数を求める。		
9		第5章 微分の応用	・導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいいたりする。また、それらを事象の考察に活用する。		
10	定期考査Ⅳ	第6章 積分とその応用 第1章 平面上の曲線	・積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。 ・平面上の曲線がいろいろな式で表される事について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
11		第2章 複素平面	・複素平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
12	伊奈講座	共通テスト演習	・共通テスト対策問題集に取り組み、入試本番に備える。		
1		共通テスト演習/私立・国公立2次対策	・共通テスト対策問題集に取り組み、入試本番に備える。 ・共通テスト後は、伊奈高生にとっての主要な大学の過去問題に取り組む。		
2	-				

## 2021年度 数学シラバス

教科名		数学		教科書等	東京書籍
科目名		数学B	教材等		Standard Buddy STAGE B 演習ノート(東京書籍)
単位数		2		履修学年区分 3学年(文系数B選択)	
履修区分		選択科目			
目 標		数列、ベクトルについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指す。また、事象を数学的に考察し処理する能力を身につけるとともに、それらを活用できるようにする。			
評価の観点		関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
観 点 の 趣 旨		数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	行動の観察	◎	○	○	
	提出物・小テスト	○	○	◎	○
	定期考査等		◎	○	◎
	観点の重み(%)	30	30	20	20
月	考査	学習内容(単元名)		学習活動とねらい	備考・変更点
4	定期考査Ⅰ	第3章 数列 1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和		・数列について理解し、一般項を求めることができるようにする。 ・等差数列の一般項や和を求めることができるようにする。	
5	定期考査Ⅱ	4 等比数列 5 等比数列の和 6 和の記号Σ		・等比数列の一般項や和を求めることができるようにする。 ・記号Σの意味と性質を理解し、数列の和が求められるようにする。 ・第k項をkの式で表して、初項から第n項までの和を求められるようにする。	
6		7 階差数列 8 いろいろな数列の和 9 漸化式 10 数学的帰納法		・階差数列を利用してもとの数列の一般項が求められるようにする。 ・初項から第n項までの和に着目して、一般項を考察できるようにする。 ・和の求め方の工夫をして、数列の和が求められるようにする。 ・初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解し、一般項を求めることができるようにする。 ・数学的帰納法を用いて、等式、不等式を証明できるようにする。	
7	定期考査Ⅲ	第1章 平面上のベクトル 1 ベクトル 2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分		・ベクトルの向き、相等について理解し、加法、減法、実数倍の演算ができるようにする。 ・成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができるようにする。	
9		4 ベクトルの内積 5 位置ベクトル		・ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めることができるようにする。 ・線分の内分点、外分点を位置ベクトルで表す公式を理解できるようにする。	
10	定期考査Ⅳ	第2章 空間のベクトル 1 空間の点 2 空間のベクトル		・空間における図形を、図や座標を利用して示すことができるようにする。	
11		3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 ベクトルの図形への応用		・空間のベクトルの成分を空間座標と関連付けて考察できるようにする ・ベクトルの内積を、平面から空間へ拡張して考察できるようにする。	
12		伊奈講座	共通テスト対策		・共通テスト対策の問題演習を行う。
1	伊奈講座	共通テスト対策		・共通テスト対策の問題演習を行う。	
2	-				
3	-				

## 2021年度 情報科シラバス

教科名		理科		教科書等	数研出版『物理』
科目名		物理	教材等	リードLightノート 物理 数研出版編集部 編	
単位数		3		履修学年区分	3学年/理系(選択)
履修区分					
目標		物理的な事象・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって力暗殺、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
観点の趣旨		物理的な事象・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	物理的な事象・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理的な事象・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事象・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物理的な事象・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察	◎	◎	○	
	制作物・プレゼン	◎	○	◎	○
	定期考査等	○	◎	○	◎
	観点の重み(%)	25	25	25	25
月	考査	学習内容(単元名)	学習活動とねらい	備考・変更点	
4	定期考査Ⅰ	・光の性質 ・レンズと鏡	・光の諸性質を確認し、光にも波の各現象を示すことを理解する。・凸レンズ、凹レンズおよび球面鏡のつくる像について理解し、作図できるようにする。		
5		・光の干渉と回折	・ヤングの実験等、様々な光の干渉について理解する。		
6	定期考査Ⅱ	・静電気力、電場、電位 ・物質と電場	・クーロンの法則を確認し、そこから電場、電位の概念の理解につなげる。・静電誘導、誘電分極について理解する。		
7	定期考査Ⅲ	・コンデンサー ・直流回路 ・半導体	・コンデンサーの性質を理解し、電気容量を理解する。・オームの法則、キルヒホッフの法則を理解する。・半導体の仕組みや特徴を理解する。		
9		・磁場 ・電流のつくる磁場 ・電流が磁場から受ける力 ・ローレンツ力	・磁場について、さらに電流が周囲に磁場を発生することを理解する。・電流が磁場から受ける力について理解し、さらに微視的考察からローレンツ力について理解する。		
10	定期考査Ⅳ	・電磁誘導の法則 ・自己誘導と相互誘導 ・交流の発生	・磁場を横切る導線に生じる誘導起電力を理解する。・コイルに流れる電流が変化すると誘導起電力が生じることを理解する。・交流の発生のおもしろさについて理解する。		
11		・交流回路 ・電磁波 ・電子	・交流電源につないだコイルやコンデンサーに加わる電圧の位相について理解する。・電磁波の発生のおもしろさについて理解する。・電子の比電荷、電荷、質量について理解する。		
12	定期考査Ⅴ	・光の粒子性 ・X線 ・粒子の波動性	・光電効果から光の粒子性を理解する。・光の粒子性から光が運動量をもつことを示す。・光の粒子性と対比しながら、電子の波動性を理解する。		
1		・原子の構造とエネルギー準位 ・原子核 ・放射線とその性質 ・核反応と核エネルギー ・素粒子	・水素原子のエネルギー準位について理解する。・不安定な原子核から放出される放射線の本体を知る。・核反応の仕組みを理解する。・素粒子とは何かを知る。		
2					
3					

## 2021年度 理科シラバス

教科名		理科		教科書等	東京書籍 新編化学
科目名		化学(理系)	教材等		インプレス化学ノート(浜島書店)
単位数		4	履修学年区分		3年理系
履修区分		選択科目			
目標		・化学に関する基本事項を理解し、化学的なもの見方や考え方を身に付ける。 ・実験、観察を通して探求する能力と化学的な物質間を身に付ける。 ・化学を理解することによって、自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。			
評価の観点		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
観点の趣旨		化学的な事物・現象に関心を持ち、主体的に探求しようとするとともに、科学的態度を身につけている。	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導きだした考えを的確に表現している。	化学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身につけている。	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身につけている。
評価方法	行動の観察	◎	○	◎	○
	提出物・小テスト	○	○	○	◎
	定期考査等	◎	◎	○	◎
	観点の重み(%)	30	20	20	30
月	考査	学習内容(単元名)		学習活動とねらい	備考・変更点
4	定期考査Ⅰ	1編 物資の状態 1章 物質の状態 2章 気体の性質		・物質の三態と熱運動について理解する。 ・気体の圧力が熱運動に関係することを学ぶ。 ・飽和蒸気圧と沸騰も関係を学ぶ。 ・気体の性質の各種法則と活用を理解する。 ・理想気体と実在気体の違いを理解する。	
5	定期考査Ⅱ	3章 溶液の性質 4章 化学結合と固体の構造 探究活動		・溶解の仕組みを理解し、溶解度について学ぶ。 ・溶液の性質の各種法則と活用を理解する。 ・固体を構成する各結合の結晶構造について学習する。	
6		2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光 2章 電池と電気分解 3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ		・物質とエネルギーについて熱化学方程式を知る。 ・電池電気分解について反応機構と量的関係について学ぶ。 ・電気分解の工業的利用について学ぶ。 ・化学反応の速さが多くの条件で変化することを知る。	
7	定期考査Ⅲ	2章 化学平衡 3章 水溶液中の化学平衡		・化学平衡の仕組みと平衡定数について理解する。 ・ルシャトリエの原理を理解する。 ・水の電離平衡について理解し、酸・塩基の強弱の理解とpH計算ができるようにする。 ・緩衝液、溶解度積について理解する。	
9		4編 無機物質 1章 周期表と元素 2章 非金属の単体と化合物 3章 典型金属元素の単体と化合物 4章 遷移元素の単体と化合物		・代表的な非金属元素の単体と化合物について知る。 ・代表的な典型金属元素の単体と化合物について知る。 ・身近な遷移元素の単体と化合物について知る。 ・金属単体や合金、セラミックスについて理解する。	
10	定期考査Ⅳ	5章 無機物質と人間生活 5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 2章 炭化水素 3章 アルコールと関連化合物		・有機化合物の特徴と分類について理解する。 ・脂肪族炭化水素アルカン、アルケン、アルキンを学び、反応の仕組みや用途を理解する。 ・アルコールとその関連化合物を知り、有機的なつながりを理解する。	
11		4章 芳香族化合物 5章 有機化合物と人間生活 6編 高分子化合物 1章 天然高分子化合物		・芳香族化合物の特徴と反応性および用途を理解する。 ・食品、洗剤、染料、医薬品と人間生活のかかわりを知る。 ・天然高分子化合物(糖類)の特徴を理解する。	
12	伊奈講座	2章 合成高分子化合物 3章 高分子化合物と人間生活		・合成高分子化合物の生成の仕組みと分類を理解する。	
1		共通テスト試験対策 私大・国公立2次試験対策		・共通テスト試験過去問を中心とした演習をおこなう。 ・私大・国公立大過去問を中心とした演習をおこなう。	
2	-				
3	-				

## 2021年度 理科シラバス

教科名		理科		教科書等	第一学習社『スクエア最新図説生物』
科目名		発展生物	教材等		東京書籍『改訂 生物基礎』
単位数		2	履修学年区分		3年文系
履修区分		選択科目			
目標		・生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解に深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
観点の趣旨		自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	行動の観察	◎	○	◎	○
	提出物・小テスト	◎	○	○	◎
	定期考査等		◎	○	◎
	観点の重み(%)	20	30	20	30
月	考査	学習内容(単元名)		学習活動とねらい	備考・変更点
4		第3編 生物の体内環境の維持 2章 体内環境を維持するしくみ 1節 自律神経系による調節		・体内環境の維持に自律神経が関わっていることを理解する。	
5		2節 内分泌系による調節		・体内環境の維持にホルモンが関わっていることを理解する。	
6		3節 自律神経系と内分泌系による協同調節		・体内環境の維持に自律神経とホルモンがともに連携しながら関わっていることを理解する。	
7		3章 免疫 1節 生体防御と免疫 2節 自然免疫		・異物の体内への侵入を防いだり、侵入した異物を排除するしくみを理解する。	
9		3節 適応免疫 4節 免疫とヒト		・侵入した異物を排除するしくみを理解する。 ・免疫反応による病気や免疫反応の利用方法について学ぶ。	
10		第4編 生物の多様性と生態系 1章 植生の多様性と分布 1 植生と生態系 2 植生と遷移		・生態系の成り立ちと植生の果たす役割を理解し、植生の遷移が生じるメカニズムを学ぶ。	
11		2章 気候とバイオーム 1 地球上の植生分布 2 陸上のバイオーム		・気象条件の違いにもとづいて、さまざまなバイオームが成立する過程を知り、世界や日本におけるバイオームについて学ぶ。	
12		3章 生態系とその保全 1 生態系でのエネルギーの流れ 2 生態系での物質の循環		・生態系におけるエネルギーの流れと物質のしくみについて理解する。	
1		3 生態系のバランスと保全 4 生物多様性の保全		・生態系のバランスや生物多様性の重要性を学び、生態系の保全について理解する。	
2					
3					



## 2021年度 理科シラバス

教科名		理科	教科書等	実教出版『生物 新訂版』	
科目名		生物	教材等	第一学習社『スクエア最新図説生物』	
単位数		3	履修学年区分	3学年(理系)	
履修区分		選択科目			
目 標		・生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解に深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
観点の趣旨		生物や生物現象に関心や探究心をもち、主体的に探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付け	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。。
評価 方法	行動の観察	◎	○	◎	○
	提出物・小テスト	○	○	○	◎
	定期考査等		◎	○	◎
	観点の重み(%)	20	30	20	30
月	考査	学習内容(単元名)	学習活動とねらい	備考・変更点	
4	I	2章 生殖と発生 1節 有性生殖	・生殖と配偶子形成を細胞・染色体・遺伝子などの視点で理解する。		
5	II	2節 動物の発生	・動物の初期発生の過程について、ウニとカエルを例に理解する。 ・発生のしくみと発生における遺伝子発現のしくみについて理解する。		
6	II	3節 植物の発生	・被子植物の生殖と発生・分化について理解する。		
7	III	3章 生物の環境応答 1節 動物の反応と行動	・動物が外界の刺激を受容し、神経系を介してそれに反応するしくみについて理解する。 ・動物の行動とその行動をめぐるしくみを理解する。		
9	III	2節 植物の環境応答	・植物がホルモンや光受容体の働きで環境変化に反応するしくみを理解する。		
10	IV	4章 生態と環境 1節 個体群とその変動 2節 生態系	・生物群集の成り立ちと多様な種が共存するしくみについて理解する。 ・生物多様性の意味およびそれを減少させる要因について理解する。		
11	IV	5章 生物の進化と系統 1節 生命の進化 2節 進化のしくみ 3節 生物の系統	・生命の起源と進化の歴史について理解する。 ・進化のしくみと生物の系統の概要を理解する。		
12		共通テスト対策	問題演習		
1		共通テスト対策	問題演習		
2					
3					